

能代市文化財調査報告書第25集

上山崎遺跡

―二ツ井地区中間管理機構関連ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書―

2026. 6

能代市教育委員会

能代市文化財調査報告書第25集

か み や ま ざ き い せ き
上山崎遺跡

―二ツ井地区中間管理機構関連ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書―

2026. 6

能代市教育委員会

序

本書は、能代市教育委員会が令和８年度に実施した能代市二ツ井町種字上山崎地内に所在する上山崎遺跡の発掘調査報告書です。

能代市教育委員会では、秋田県による二ツ井地区中間管理機構関連ほ場整備事業の実施に伴い、事業区域内に所在する遺跡の保護について事業者と協議してまいりました。その結果、工法の変更などを考慮しても破壊を免れない遺跡範囲について記録保存の措置をとることとし、本遺跡の発掘調査を実施したところ、平安時代に属すると思われる溝跡が確認されました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保護のため広く活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、調査にご協力いただきました関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

令和８年６月

能代市教育委員会

教育長　高　橋　誠　也

例 言

- 1 本報告書は、二ツ井地区中間管理機構関連ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本報告書には、能代市教育委員会が調査主体者となり実施した、秋田県能代市二ツ井町種字上山崎所在の上山崎遺跡の調査結果を収めた。
- 3 本報告書の執筆は武田航が行った。
- 4 調査及び本報告書の刊行にあたって、次の方々から指導、助言を賜った。(敬称略)
伊 豆 俊 祐 工 藤 晃
- 5 調査に関する全ての資料は能代市教育委員会が保管している。

凡 例

- 1 本報告書挿図中に使用した土色表記は、農林水産省水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』によった。
- 2 挿図中の遺物実測図には器種を問わず通し番号を付した。それらは図版中の遺物写真の番号とも対応する。
- 3 土層注記は基本層位にローマ数字を用い、遺構埋土にはアラビア数字を用いた。
- 4 挿図中の方位は座標北を示す。

目 次

序

例言・凡例・目次

第1章 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第1節 調査に至るまでの経緯

第2節 調査の組織と構成

第3節 調査の経過

第4節 遺跡の位置と歴史的環境

第2章 調査の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第1節 調査の方法

第2節 検出遺構と出土遺物

第3章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

図版

抄録

第1章 調査の概要

第1節 調査に至るまでの経緯

秋田県山本地域振興局では、能代市域において農地中間管理機構関連ほ場整備事業を計画的に継続して実施している。令和8年度も二ツ井、麻生地区における事業計画があり、能代市教育委員会に対し事業予定地内における埋蔵文化財の有無について照会があった。能代市教育委員会は、二ツ井地区がチャクシ館跡の隣接地、麻生地区が麻生遺跡、麻生上ノ山遺跡の隣接地であることから事前調査の必要がある旨を回答した。その後、令和7年11月10日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を令和7年12月8日から11日にかけて実施した。その結果、二ツ井地区から平安時代の溝跡が検出され、能代市二ツ井町種字上山崎80・81を新発見の上山崎遺跡とし、上山崎遺跡の全域1,900㎡が事業範囲に含まれることを確認した。この結果をもとに、両方で埋蔵文化財の取り扱いについて協議したところ、やむを得ず遺跡を現状のまま保存できないことから、工事着工前に記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

秋田県山本地域振興局からは令和8年1月22日付けで文化財保護法第94条に基づく通知があり、これに対し秋田県教育委員会から同年3月2日付け教生文ー1732号で発掘調査実施の指示があった。これを受け、能代市教育委員会は記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の組織と構成

遺跡所在地	秋田県能代市二ツ井町種字上山崎80・81		
調査期間	令和8年4月24日～5月19日		
調査面積	1,900㎡		
調査主体者	能代市教育委員会		
調査担当と体制	能代市教育委員会	生涯学習・スポーツ振興課	文化財保護室
	課長	柳谷 敬（～令和8年4月30日）	
		青山 英弘（令和8年5月1日～）	
	文化財保護室		
	室長	工藤 英子	
	主査	山崎 典之	
	主任	松森 翔	
	主事	武田 航（調査担当）	
	行政専門員	山崎 和夫（調査担当）	
整理作業員	越前谷美和子 市川志穂子		
協力機関	秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 山本地域振興局農林部農村整備課		

第3節 調査の経過

発掘調査は令和8年4月24日から5月19日までの期間で実施した。令和7年12月の試掘調査で検出していた遺構の精査を開始、令和8年5月19日までに記録作成を終えた。最終的な遺構数は、平安時代の溝跡が1条であったが、そのほかに近世以降の溝跡1条も確認している。

4月24日～30日 草刈りを終えたあとバックホウによる表土除去、遺構検出面までの掘削をした。新たに確認した南側の溝跡の時代、性格を調べるためにバックホウで東側にトレンチを空け近世以降のものと判断した。

5月11日～15日 調査区内で南西から北東方向に伸びる溝跡を掘り下げ記録を作成した。

5月18日に平板測量、19日に水準測量を実施して調査を終えた。

第4節 遺跡の位置と歴史的環境

上山崎遺跡が所在する能代市は、秋田県の沿岸北部にあり、奥羽山脈から発し県北部を東西に貫流する米代川の下流域に市域が広がる。能代市周辺の地形を広範囲に見ると、山地の下に丘陵が形成され、その丘陵地は段丘地となりさらにその下には沖積低地が砂丘を挟んで日本海へと続いている。市内の地形は概ね東部が山地・丘陵地、西部は台地・低地となっており、台地には日本海や米代川による段丘が発達している。

遺跡は、種梅川左岸の段丘上、北緯 $40^{\circ}12'44''$ 、東経 $140^{\circ}13'27''$ に位置する。能代市役所二ツ井町庁舎からは、北西に1km、国道7号線からは南に最短距離で0.4kmの地点である。付近の標高は17m前後で、遺跡から約0.4km東側は比高80mほどの丘陵地となっている。

周辺では、本遺跡の北約0.5kmに所在するチャクシ館跡（平成13年調査）、南西約0.9kmに所在する大川口遺跡（平成6年調査）、北約0.8kmに所在する萩ノ岱遺跡などがあり、いずれにおいても平安時代関連の遺構・遺物が確認されており、地域一帯に平安時代の生活の痕跡が認められる。

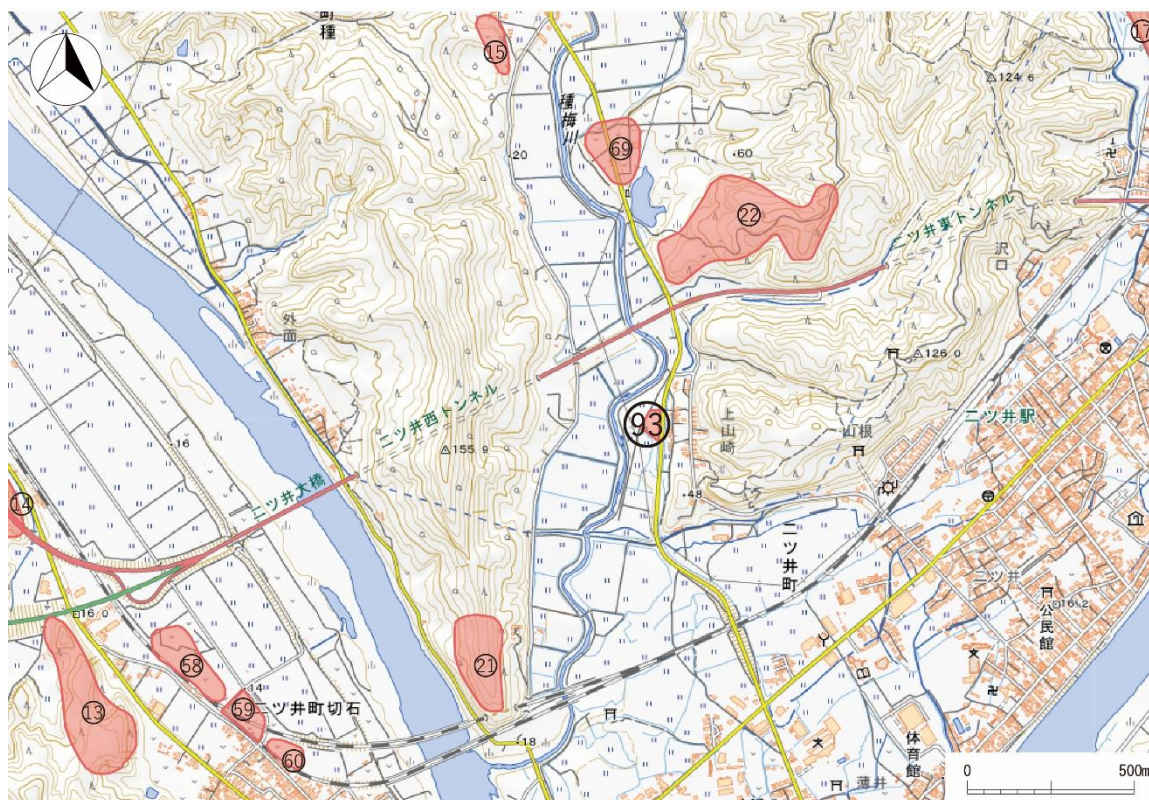
参考文献

能代市 『能代市史 資料編 考古』 1995年

能代市 『能代市史 資料編 自然』 2000年

二ツ井町教育委員会『大川口遺跡』 二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第4集 1994年

二ツ井町教育委員会『チャクシ館遺跡』 二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第9集 2001年



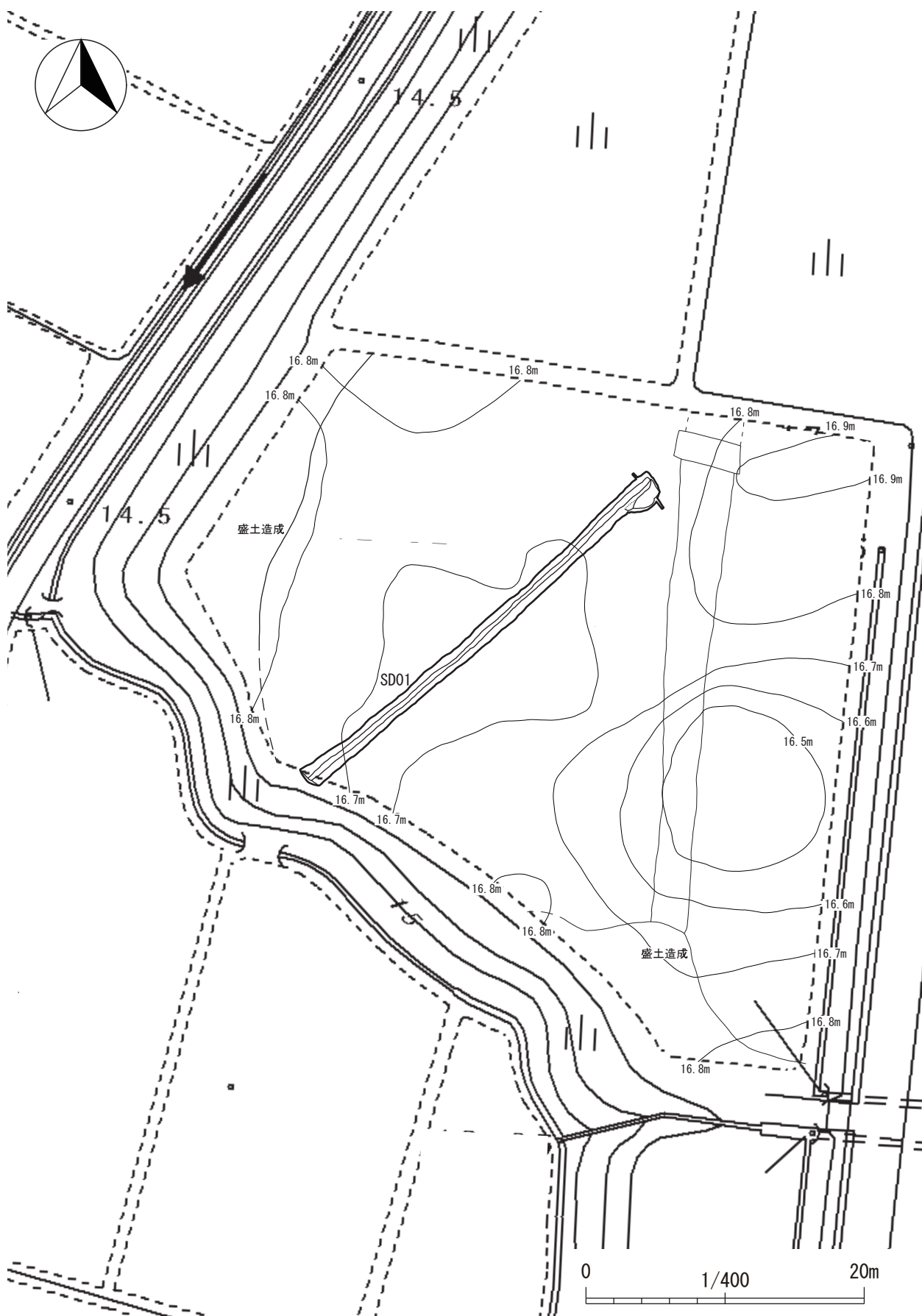
第 1 図 周辺遺跡分布図

No.	遺 跡 名	所 在 地	種 別	時 代
13	竜毛沢Ⅰ遺跡	切石字竜毛沢	館跡・遺物包含地	中世
14	竜毛沢Ⅱ遺跡	切石字竜毛沢	集落跡・館跡	旧石器・縄文・平安・中世
15	小沼遺跡	種字古館	館跡・遺物包含地	平安・中世
17	館平遺跡	荷上場字町館	館跡・遺物包含地	縄文・中世
21	大川口遺跡	種字大川口	館跡・遺物包含地	縄文
22	チャクシ館遺跡	種字萩ノ台	館跡・狩猟場・遺物包含地	縄文・平安・中世
58	館腰遺跡	切石字館腰	遺物包含地	平安
59	家ノ下Ⅰ遺跡	切石字家ノ下	遺物包含地	縄文・平安
60	家ノ下Ⅱ遺跡	切石字家ノ下	遺物包含地	平安
69	萩ノ岱遺跡	種字萩ノ岱	遺物包含地	平安
93	上山崎遺跡	種字上山崎	散布地	平安

第 1 表 周辺遺跡一覧



第2図 調査範囲図



第3図 遺構分布図

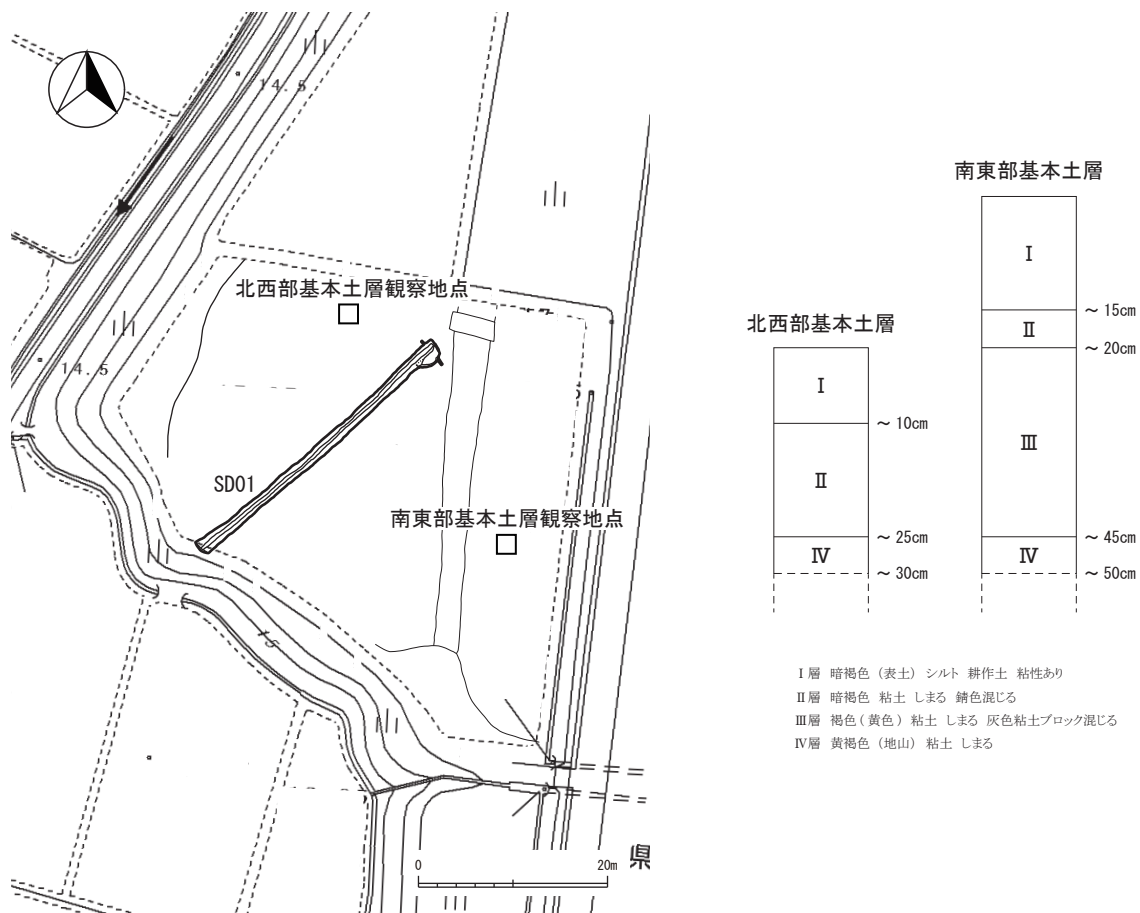
第2章 調査の記録

第1節 調査の方法

調査対象範囲をバックホウにより遺構確認面まで掘り下げたあと、人力で地表面を精査し遺構の検出に努めた。検出した遺構には略号と検出順に仮番号を付したが、精査後に欠番としたものもある。

調査の記録は主に図面と写真によった。図面は、遺構については任意に設定したポイントを基準に測量を行い、1/20の縮尺で平面図、埋土断面図等の図面を作成した。基準点や調査範囲等については、1/100の縮尺で平板測量を行った。写真撮影には、デジタル一眼レフカメラを使用した。遺物については、遺構内の遺物は層位ごとに取り上げるよう努めた。なお、遺構外からの出土遺物はなかった。出土遺物量はポリ袋1袋弱と少量であった。

基本層序は以下のとおりで、調査区南東部、調査区北西部の土層を基準とし、表土から地山層まで大きくIV層に分けられた（第4図参照）。



第4図 基本土層

第2節 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、平安時代の溝跡1条である。なお、調査区東部の地山上面で確認された最大幅3.4mの溝跡は、埋土下層から近代の磁器片が出土したことから新しい溝と判断した。参考までに第8図に土層と出土遺物を示す。

SD01 溝跡（第5、6図、図版3～6）

〈位置と確認〉調査区中央部から西部の地山上面で、焼土・炭化物が微量混入する黒褐色土の溝状の落ち込みが、北東―南西方向に直線的に延びる。

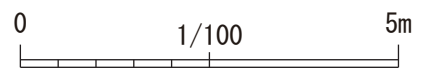
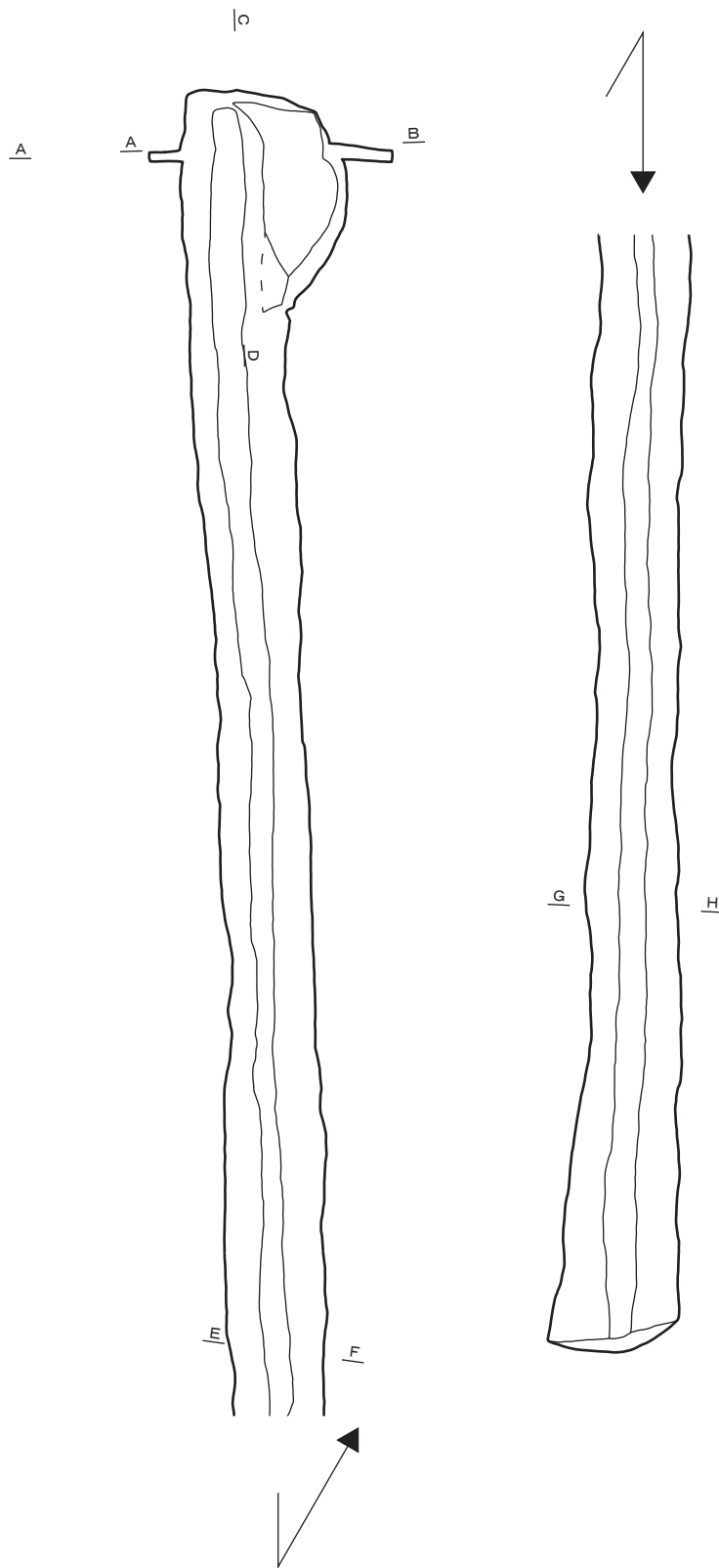
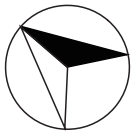
〈形態・規模〉確認長は3.3mで、上面幅は約1.2m、深さは最大80cm程度で、断面形は逆台形状を呈する。溝跡は南西側ほど幅広く、深くなる。

〈覆土〉6～8層に分けられた。自然堆積と考えられる。

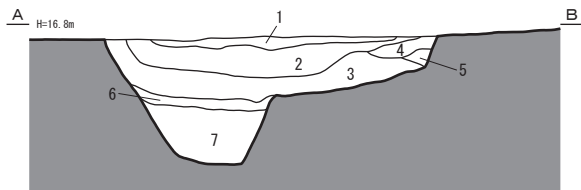
〈遺物〉（第7図、図版7）土師器、鉄製品が出土した。

遺物 No.	出土遺構	種別	器種	残存部位	重量 (g)	備考
1	SD01	土師器	甕	体部	18	
2	SD01	土師器	甕	体部	6	摩滅
3	SD01	土師器	甕	口縁部	10	
4	SD01	土師器	甕	体部	10	
5	SD01	土師器	甕	口縁部	33	
6	SD01	土師器	甕	体部	5	工具痕あり
7	SD01	鉄製品	不明	不明	25	
8	SD01	土師器	甕	体部	9	
9	SD01	土師器	甕	体部	12	

第2表 出土遺物一覧

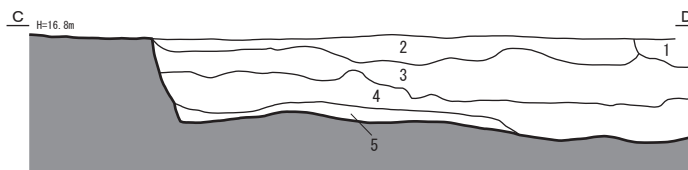


第5図 SD01 平面図



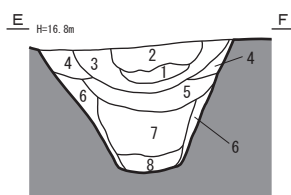
上山崎 A-B ベルト土層

1	暗褐色土	(10YR3/3)	砂質シルト	しまりあり	
2	黒褐色土	(10YR3/2)	シルト	しまりあり	
3	暗褐色土	(10YR3/4)	砂質シルト	しまりあり	
4	褐色土	(10YR4/4)	砂質	しまりあり	鉄色ブロック混じる
5	暗褐色土	(10YR3/3)	シルト	しまりあり	鉄色ブロック混じる
6	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	砂質シルト	しまりあり	
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質シルト	しまりあり	鉄分沈着粒子含む
7	にぶい黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	水分含む
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質	しまりあり	水分含む 鉄分粒子含む



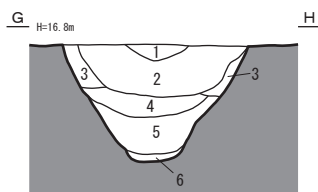
上山崎 C-D ベルト土層

1	黒褐色土	(10YR3/2)	シルト	しまりあり	
2	暗褐色土	(10YR3/4)	砂質シルト	しまりあり	
3	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	砂質シルト	しまりあり	
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質シルト	しまりあり	鉄分沈着粒子含む
4	にぶい黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	水分含む
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質	しまりあり	水分含む 鉄分粒子含む
5	灰黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	上層より水分含む 地山



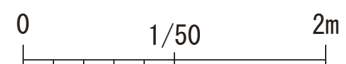
上山崎 E-F ベルト土層

1	黒褐色土	(10YR3/1)	シルト	しまりあり	
2	黒褐色土	(10YR3/2)	シルト	しまりあり	黄褐色ブロック 30%混じる
3	黒褐色土	(10YR3/3)	シルト	しまりあり	
4	暗褐色土	(10YR3/4)	シルト	しまりあり	
5	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	砂質シルト	しまりあり	
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質シルト	しまりあり	鉄分沈着粒子含む
6	灰黄色土	(10YR6/2)	シルト	しまりあり	
7	にぶい黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	水分含む
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質	しまりあり	水分含む 鉄分粒子含む
8	灰黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	上層より水分含む 地山

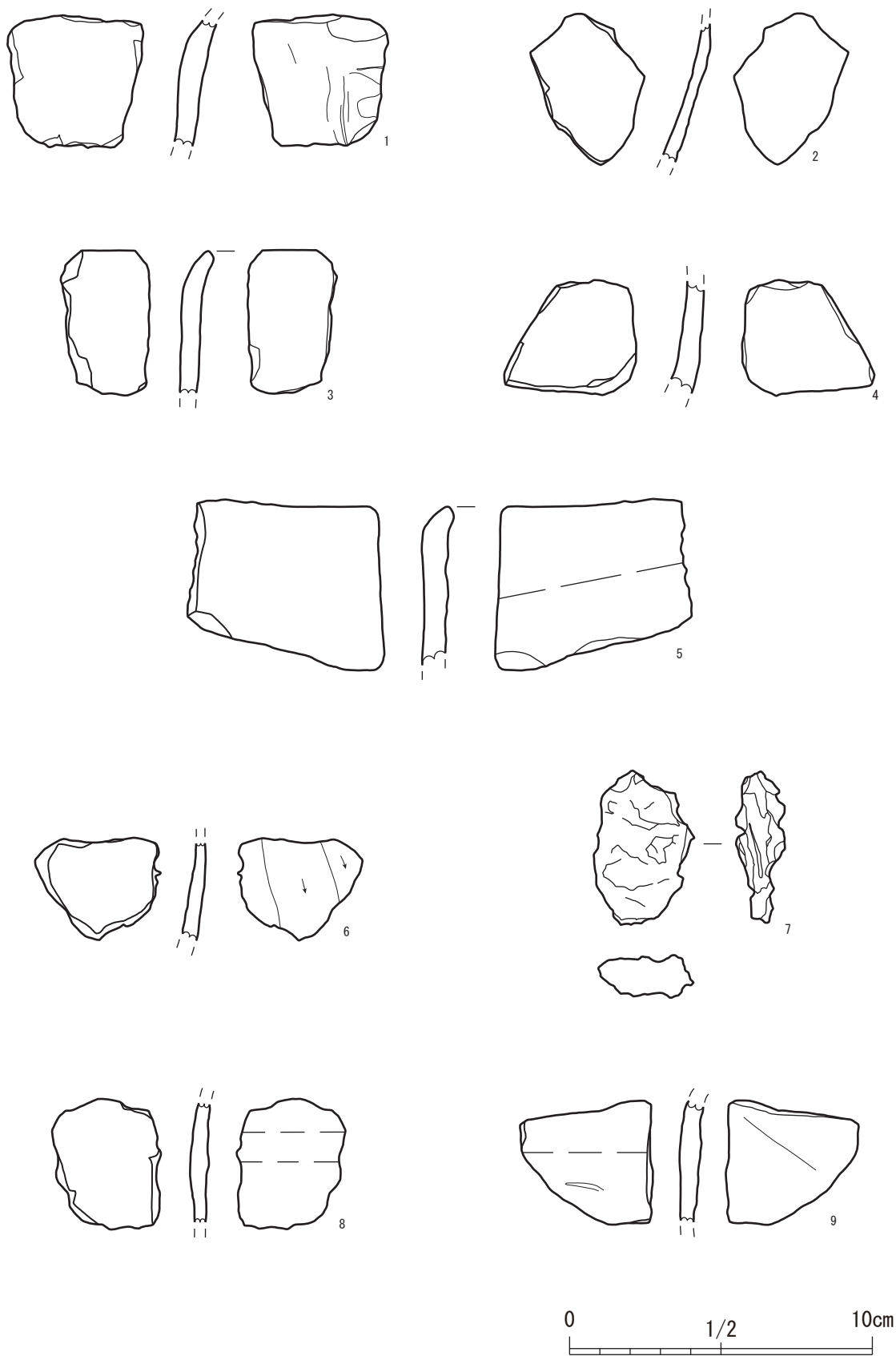


上山崎 G-H ベルト土層

1	黒褐色土	(10YR3/1)	シルト	しまりあり	
2	黒褐色土	(10YR3/2)	シルト	しまりあり	黄褐色ブロック 30%混じる
3	暗褐色土	(10YR3/4)	シルト	しまりあり	
4	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	砂質シルト	しまりあり	
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質シルト	しまりあり	鉄分沈着粒子含む
5	にぶい黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	水分含む
	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	砂質	しまりあり	水分含む 鉄分粒子含む
6	灰黄褐色土	(10YR5/2)	粘土	しまりあり	上層より水分含む 地山



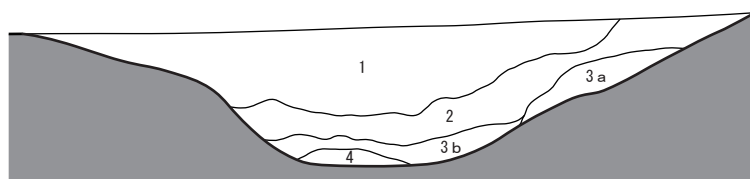
第6図 S D O 1 断面図



第7図 遺構内出土遺物

第3章 まとめ

今回の調査範囲からは、平安時代の溝跡1条を検出した。その溝跡は農耕に係わる遺構と想定され、当時は水田が広がっていたと考えられる。だが、現代の区画整理等で当時の水田は消失したものと考え、さらに遺構、遺物ともに少なく、当時の人々の生活を想定することはできなかった。



近代溝跡土層

1	黒褐色土 (10YR3/1)	シルト	堅く締まる	
2	暗褐色土 (10YR3/4) 主体	砂質シルト	しまりややあり	1・3aの土ブロック状混入
3a	灰黄褐色土 (10YR5/2)	粘土	しまりややあり	錆色ブロック30%混入 地山?
3b	黒褐色土 (10YR3/2)	砂質シルト	しまりややあり	磁器片出土
4	褐灰色土 (10YR5/1)	砂質シルト	しまりあり	含水多い 上部に薄く鉄分沈着砂層



近代溝跡 3b層出土磁器片

第8図 近代溝跡 簡易土層、出土遺物



調査区遠景（→東）



調査区近景（→南）



調査区近景(→西)



調査区調査終了状況(→西)



遺構全景(→南)



遺構全掘全景(→南)



S D O 1 確認状況 (→北東)



S D O 1 完掘状況 (→北東)



S D O 1 G-H地点 断面図 (→北東)



S D O 1 E-F地点 断面図 (→北東)



S D O 1 北東部ベルト(→北東)



S D O 1 北東部ベルト(→南西)



S D O 1 北東部ベルト除去後
(→南西)



S D 0 1 A—B地点 断面図①(→北東)



S D 0 1 C—D地点 断面図②(→東北)



S D 0 1 C—D地点 断面図①(→南東)



S D 0 1 C—D地点 断面図②(→南東)



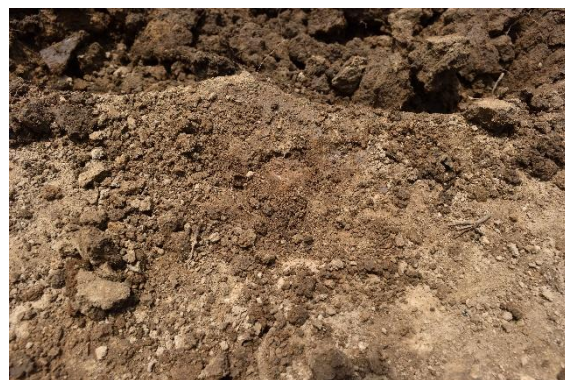
S D 0 1 C—D地点 断面図③(→南東)



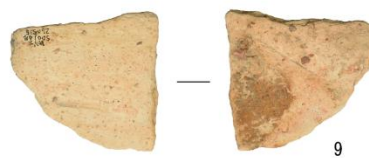
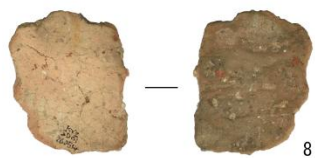
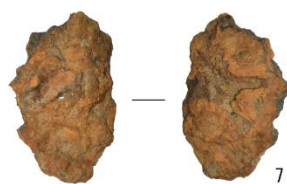
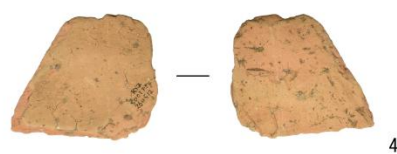
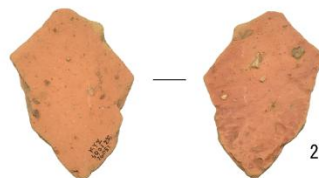
S D 0 1 C—D地点 断面図④(→南東)



S D 0 1 遺物出土状況



S D 0 1 遺物出土状況



報告書抄録

ふ り が な	かみやまざきいせき							
書 名	上山崎遺跡							
副 書 名	二ツ井地区中間管理機構関連ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ	能代市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 2 5 集							
編 著 者 名	武田航							
編 集 機 関	能代市教育委員会							
所 在 地	〒018-3192 秋田県能代市二ツ井町字上台 1 番 1 号 TEL:0185-74-6040							
発行年月日	西暦 2 0 2 6 年 6 月 3 0 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみやまざきいせき 上山崎遺跡	あきたけん 秋田県 のしろし 能代市 ふたつ いまちたね 二ツ井町種 あざかみやまざき 字上山崎	05202	202- 19-93	40° 12' 44"	140° 13' 27"	20260424 ～ 20260519	1,900	開発事業 (ほ場整備 事業)
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上山崎遺跡	散布地	古 代		溝跡 1 条		土師器		

能代市文化財調査報告書第25集

上山崎遺跡

—二ツ井地区中間管理機構関連ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—

印刷・発行 令和8年6月

編集・発行 能代市教育委員会

〒018-3192

秋田県能代市二ツ井町字上台1番1号

TEL 0185-74-6040

FAX 0185-73-6459